

伊豆鳥島の航空磁気測量結果*

The Results of Aeromagnetic survey of Izu-Torishima

海上保安庁
Japan Coast Guard

2011年11月に実施した南方諸島伊豆鳥島の磁気測量結果について報告する。

1 調査要目

期間： 2011年11月15日,11月17日

航空機：MA725号機（海上保安庁）

磁力計：ポタシウム磁力計

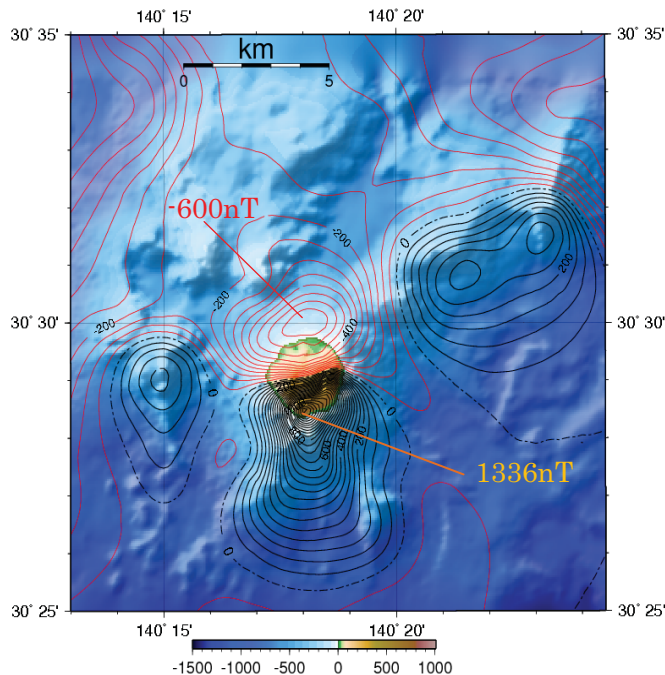
観測高度：710m

測線：南北方向17測線（約900m間隔）、東西方向3測線（伊豆鳥島中央部及びその南北1.8km）

2 調査結果

図1に伊豆鳥島の地磁気異常分布（IGRF2010による）を示す。

伊豆鳥島は周辺の地形による影響を受け、ややいびつではあるが、火山島によく見られるダイポール型の地磁気異常を示す。正異常の最大値は1336nT、負の最大値は-600nTであり、振幅で約2000nTとなる。同島の北2kmから8kmに位置する地形の高まりは磁氣的に平坦であり、一方、北東及び西の高まりは磁気異常を有することから、それぞれの山体を構成する岩石の違いを示唆する。なお、地磁気日変化量の補正には、気象庁鹿屋観測施設のデータを使用した。



凡例
—線は正
-線は負
---線は零を示す

* 図の陸部の地形は国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ」を使用した。
また、作図にはGMTを使用した。

単位 ; nT
コンター間隔 ; 50nT

図1 地磁気異常分布図

Fig 1 Magnetic anomaly (contour interval:50nT).

* 2012年3月29日受付